



縄文村おこし

長岡市柿町 伊部 登

柿町は、東山の麓に64世帯が暮らす静かな町です。あの中越大地震で大きな被害が出ました。地震で痛めつけられ後継者がいなく田畑が放棄されて雑草ばかりが目につくようになってきました。

この地には5000年もの昔、縄文の人たちが生活をしてきた山下(さんか)遺跡があります。この遺跡を生かしながら、扇状にひらけた棚田を利用した、地域活性化を計ろうと考えています。

隣接する高町団地は、500戸を越す大団地です。その住民や子供たちと協働で竹林を切り開いて広場を造り、又その竹を使った遊び道具作り、竹炭体験、耕作を放棄された土地を利用した農業体験等を通じて、多くの人達から柿に来てもらい、そこに住む我々も活気あふれる地域にしたいと思っています。



里山から里海へ 生物多様性の地域社会の構築を 目指して!

中越震災から五年目を迎えた十月三十一日(土)山古志地域で豊かな里山の再生を願う縄文ぶな街道物語を開催。水没した木篋(こども)集落や闘牛場周辺の被災地を視察。昼食後油夫のぶな林(区長さんの所有地)でぶな苗の採取、ポット植栽、フィールドミュージアム予定地にてぶな苗の仮植えをしました。地元の方や関係団体のみなさんと秋晴れの天候のもと、さわやかな汗をかきながら作業に励みました。



松木記

私たちはみどりの震災復興を通じて豊かな里山の再生を願う活動を進めています。

山古志に復興のアルパカ

アルパカ観にきてください

長岡市山古志竹沢 油夫前区长 青木 毅



油夫のムラは地震の時に21戸あったけれども、今は9戸に減っちゃいました。年寄りが多くなって、みんなで仲良く暮らして行こうと話合っていました。

山古志にアルパカが来ると聞いていたども、まさか油夫で飼うことになるとは思わなかった。「牛飼ったことがあれば大丈夫」「羊と同じ」「子供にも、年寄りにも良く懐く」「優しい動物で手がかからない」と言われてその気になりましたが、生き物のことだから心配も大きかったもんです。

11月2日、初雪の夜、トラックから降りたチェスターを一目観たとき、まずバアサンたちがその愛らしさのとりこになっちゃいました。

油夫にいますので大勢の人達から来てもらいたいと思っています。集落のなかで昔、牛を飼っていたときのように家族同様に暮らしながら、お出でいただいた皆さんと仲良くやっていければ、こんなうれしいことはありません。



縄文ぶな街道物語

